別紙４（添付）

第２回さぬき市観光ビジョン策定委員会　会議結果

１　会議日時　　令和８年１０月７日（水）　１８：３０～２０：３０
２　会議場所　　さぬき市役所本庁３０１・３０２会議室
３　出 席 者　　［委　員］　佃委員長　尾﨑副委員長　丸山委員　遠山委員　岡委員
　　長尾委員　藤井委員　古田委員　竹越委員　三宅委員
　　［事務局］　観光推進室　池田室長　武田室長補佐　荒井主任主事
　　［その他］　ビジョン策定支援業務受託者
　　（株）まちづくり観光デザインセンター　加藤氏
　　オブザーバー　丁野氏
　　香川県自治振興課　坂下氏
　　［傍聴人］　１人
４　議　　題　　・観光ビジョンの基本構想等について
　　・講演
　　・事務局説明
５　資　　料　　・第２回さぬき市観光ビジョン策定委員会次第
　　・第１回・第２回さぬき市観光ビジョン策定ワークショップの開催結果
　　・さぬき市観光ビジョンの概要及び策定スケジュールの見直しについて
　　・第３次さぬき市総合計画骨子案
　　・さぬき市観光ビジョン（基本構想）案
　　・さぬき市観光振興ビジョンに寄せて

６　会議要旨

発言者	意見概要等
事務局	失礼いたします。ご案内の時間が参りましたので、ただ今から、第２回さぬき市観光ビジョン策定委員会を開会いたします。会議に移るまでの間、進行を務めます、さぬき市商工観光課観光推進室の武田です。よろしくお願いいたします。本日の会議には、委員１０名の方、全員にご出席をいただいております。委員の過半数に達しておりますので、さぬき市観光ビジョン策定委員会設置要綱第６条第２項の規定により、本会議が成立することをご報告いたします。なお、前回欠席されておりました、さぬき市婦人団体連絡協議会の藤井邦子会長にご出席いただいておりますので、ご紹介させていただきます。
藤井委員	（挨拶）
事務局	ありがとうございました。また、本会議につきましては公開としておりますが、本日の傍聴者は１名であることをあわせてご報告させていただきます。それでは、はじめに、さぬき市商工観光課観光推進室室長の池田より、ご挨拶を申し上げます。
池田室長	（挨拶）
事務局	続きまして、策定委員会委員長の佃高松大学・高松短期大学学長より、御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。
委員長	（挨拶）

事務局	ありがとうございました。また、本日はビジョン策定にご支援いただいております、丁野朗様、加藤肇子様、香川県自治振興課の坂下様にもご出席いただいておりますのでご紹介します。それでは会議に移ります。委員会設置要綱第６条第１項の規定によりまして、会議の議長は委員会の委員長が行うとなっておりますので、以降の議事進行につきましては、佃委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。
委員長	それでは、会議を進めます。今日は議論を何回かに分けて進めます。また、丁野先生にも後ほどお話をいただきます。 最初に、少し無理を言って議題に加えてもらったことがあります。第１回委員会やワークショップでも、いろいろなお話をしてきましたが、まず、「さぬき市とは何か」を一言で皆様にお話しいただきたいと思います。 例えば、昔からあるまちであれば、そのまちのイメージが歴史の中にしっかり刻まれています。しかし、さぬき市は、２００２年の合併からまだ２０年余りです。「さぬき市はどのようなまちなのか」と聞かれても、なかなか答えにくいのではないでしょうか。 よく、さぬき市といえば、津田の松原、平賀源内、大串半島などが挙げられますが、それぞれが点として存在しています。そこで、皆様がさぬき市をどのようなまちだと考えているのかを少し議論してみたいと思います。 観光ビジョンを作る場合、そのまちをどのようなイメージで捉えるかが大切です。短くても長くても構いません。「さぬき市は、このようなまちです」と説明するとすれば、どのように説明するでしょうか。外国人からも、「あなたのまちはどのようなまちですか」と聞かれることがあります。そのときに、「このようなまちです」と言えることは大切です。これからのさぬき市を考える上でのキーワードが出てくればよいと思います。３０分程度、順にお話しいただきたいと思います。
委員	私が考えるさぬき市は、やはり四国八十八ヶ所霊場の結願の地であることが、素晴らしい強みだと思います。そこには、人の優しさもあると思います。私は大川町に住んでいますが、合併して２０年以上経っても、心の中には、さぬき市よりも、まだ「大川町」という意識があります。旧５町が一つになり、みんなが一つになっているという感覚は今もあまりありません。以上です。
委員長	ありがとうございます。次の方、お願いします。
委員	私が思うさぬき市は、よく「半分田舎、半分都会」と言われますが、実際に初めて来た感覚では、「３分の２が田舎で、３分の１が都会」というイメージです。交通インフラが十分ではないという面もありますが、何より、上がり３か寺を有する、四国八十八ヶ所霊場の特別な場所です。 一方、それをお接待という形で、市民や地域がまちづくりの根幹に位置付けているかというと、まだそこまでは至っていないように感じます。
委員長	ありがとうございます。次の方、お願いします。
委員	私の印象は、まだまだ発掘されていないものがあるまちです。以前、市内を巡って夕食や朝食の食材を順番に購入する「食材調達ツアー」のような取組をしたことがありました。市内には、まだ知られていない食材もあ

	りますし、知られていない人物もいます。発掘すれば、まだまだ多くのものが出てくると思います。以上です。
委員	「さぬき市とは何か」と言われたときに、私の中で浮かんだのは、少し厳しい言い方になるかもしれませんが、「可もなく不可もなくの地域」ということです。観光面でも、全国的に「これ」と言えば分かってもらえるような、非常に突出したものがあるかと言われると、上がり３か寺はあるかもしれませんが、遍路に興味のない人にはなかなか伝わりません。 一方で、悪いところとして名前が出るような地域でもありません。生活面では、災害も比較的少なく、生活しやすいという話はあります。しかし、住んできた人間からすれば、非常に不便というわけでもなければ、特別便利というわけでもない。そのようなところに落ち着くのではないかと思います。少し厳しい意見で申し訳ありません。
委員	私は事情があって、津田町と大川町の２つの地域で暮らした経験があります。大川町では、婦人団体など地域の方々の力が非常に強いと感じました。初代会長をはじめ、いろいろな方に教えていただきました。当時から、人のために多くの事業を行っていました。現在は津田町に住んでいますが、津田でも若い方々が地域のために活動しています。さぬき市は、人が温かいまちだと感じています。
委員	観光協会の立場として参加していますので、大変耳の痛い話でもあります。「さぬき市には何があるのか」という問いは、長年言われ続けてきたことです。委員長がおっしゃるように、さまざまな資源が点として存在していることは、そのとおりです。観光協会でも、旧５町時代から続くイベントを、さぬき市のイベントとしてまとめるのか、統合するのか、廃止するのかという議論を重ねてきました。私が観光協会に関わって１０年ほどになりますが、結論から言えば、１０年前の時点では、その議論はあまり進んでいませんでした。 この１０年間で、観光協会を法人化したり、各支部で組んでいた決算や、旧５町単位の予算を見直したり、少しずつ取組を進めてきました。しかし、まだ道半ばです。先ほど委員もおっしゃいましたが、旧５町それぞれの特色はあります。一方で、現時点で「さぬき市として何か」と言われると、それを一つにまとめきれていません。旧町の間に見えない壁のようなものがあり、「これを統合すると、うちの地域はどうなるのか」という話も、現在でもあります。 今回の観光ビジョンの策定を好機と捉え、改めてその辺りを定義し直すことは、非常に有意義だと思います。結願のまちというだけでなく、例えば、「人を幸せにするまち」や「出会いのまち」など、少しわくわくするような定義付けができればよいと考えています。
委員	私は１年前に市内の支店へ赴任しました。１年前の印象を正直に申し上げると、さぬき市は無名のまちで、何も思い浮かびませんでした。 私はこれまで銀行員として県外にも勤務し、１０年ほど前から高松市に住んでいます。妻の実家も高松町ですが、さぬき市には、それまでほとんど来たことがありませんでした。 赴任して１年が経ち、銀行内の職員に市内の各地域について尋ねると、志度寺や津田の松原という名前は出てきます。しかし、そこからもう一歩掘り下げ、志度寺にどのような歴史があるのか、津田の松原がどのような

	経緯で現在まで守られてきたのかを説明できる人は、なかなかいません。表面的に場所の名前しか説明できないと感じています。また、この１年間でいろいろな方と接して感じたのは、さぬき市の人は優しいということです。悪く言えば、ゆったりしていて、少し時間が止まっているようなところもあります。しかし、景観など、よいところも非常に多くあります。都会から来た人にとっては、津田から見る景色や志度から見る景色は、心を動かす魅力があると、現在は感じています。
委員	以前、旅行会社にいたとき、様々な地域の方が「教育旅行に来てください」「修学旅行に来てください」「人が優しく、食事がおいしく、景色が素晴らしく、体験も多く、何でもできます」と売り込んでいました。しかし、それでは、その地域の特徴が何なのか分かりません。このことは、いつも感じていました。 さぬき市については、小さな山々に囲まれ、ため池が多く、海と山がある、という印象です。また、私が東京の知人にさぬき市で活動していると言うときは、「讃岐うどんの讃岐、香川県さぬき市」と説明します。実際には、讃岐うどんの有名店は県西部に多いですが、せっかく「さぬき市」という名称ですので、讃岐うどんのイメージをもっとさぬき市に引き寄せてもよいのではないかと思います。これまでそれほど意識していませんでしたが、結願の上がり３か寺は、やはり特徴になると思います。
委員	市役所に勤務している立場からすると、耳の痛い意見も多くありました。自分なりに、さぬき市にどのようなイメージがあるか考えました。田舎と言い切るほどでもなく、もちろん都会ではありません。「ほどよい田舎」というイメージがあるのかもしれません。 また、地域のつながり、旧町ごとのつながりが現在も根強いと感じます。合併して２０年以上になりますが、市全体で大きくまとまって動くというより、地域ごとにまとまって活動する傾向があります。これは悪いことではありませんが、旧町意識が残っている地域だと思います。 観光資源という意味では、大串半島から見る景色は、他にはない素晴らしいものだと思います。瀬戸内海を通る船の動く速さが、ちょうどよい距離から見えます。近すぎても遠すぎても、あのようにゆったりと時が流れるようには感じないと思います。高さや距離がちょうどよく、さぬき市ならではの景観だと思います。
事務局	何もないわけではありません。例えば偉人であれば平賀源内がいます。全国的に誰もが知っているほどではないかもしれませんが、大河ドラマなどを契機に注目された歴史上の人物です。 上がり３か寺も、他の地域にはないものです。野外音楽広場テアトロンも、ほかにはない施設です。 しかし、それらが突出して全国的な知名度を得ているかというと、そうではありません。言葉は悪いですが、中途半端というか、どれか一つを突き詰め切れていない印象があります。
事務局	一昨日、委員長からこの問いかけをいただきました。観光ビジョン策定の作業を始めたときにも、同じ問いかけをいただいています。旧５町それぞれに資源がありますが、皆様のお話にもあったように、人の交流という部分は共通するのではないかと思います。お接待の文化など、人を迎える土壌があります。

	瀬戸内国際芸術祭で、様々な団体の協力を得ておもてなしを行った際には、来場者アンケートで、「作品以上に地域の人との交流が印象に残った」「うれしかった」という声が多くありました。人と人との接し方は、自慢できるものではないかと思います。もちろん、親切な対応やおもてなしは、他のまちにもあるかもしれません。しかし、現時点で、さぬき市の誇れる財産として伝えていくべきものの一つではないかと考えています。
事務局	私はさぬき市で生まれ、現在も住んでいます。皆様がおっしゃったように、おもてなしの心は地元でずっと感じてきました。小学生のときには、地域の方が通学路をパトロールし、その方々と話をすることもありました。地域の人との距離が非常に近いまちだと、小学生、中学生の頃から感じていました。 高校卒業後、公務員になろうと思ったとき、県庁や他の市町ではなく、地元の人たちと一緒に、これまで地域の方々からしていただいたことを少しずつ返していきたいと思い、さぬき市役所に入りました。瀬戸内国際芸術祭のときにも、地域の皆様にお世話になりました。地元の人の思いの強さを感じる場面が多くあります。人のよさ、おもてなしの心が、さぬき市の一番の魅力ではないかと思います。
その他	宮城県栗原市は、２００５年に１０町村が合併してできた市です。地域ごとに特色があり、当初は一体感が乏しい状況でした。そこで、観光ビジョンを作る際に、地域全体に共通するものは何かを探しました。栗原市には栗駒山があり、そこから３本の川が流れ、流れ着く先には伊豆沼があります。市内のどの地域に住んでいても、栗駒山の恩恵を受けています。 新幹線でくりこま高原駅に帰ってきたとき、栗駒山が見えると、「帰ってきた」と感じます。このように、エリアのシンボルとして、皆が共通して「ここに帰ってきた」と思えるものがあるのではないか、ということです。 私は、さぬき市は旧讃岐国の名前を取った市だと捉えています。私は、「讃岐国のまほろば」と呼んでもよいのではないかと思っています。「まほろば」とは、すばらしい場所、理想郷という意味です。私の出身地である高知県南国市は、「土佐のまほろば」と呼ばれています。古代土佐国の中心であり、穀倉地帯として豊かな地域だからです。さぬき市には、県内最大級の古墳をはじめ、多くの古墳があります。古代から地域が開かれ、発展してきた場所です。その意味で、「讃岐のまほろば」という表現を使ってもよいのではないかと思います。 誰かに決めてもらうものではなく、市民の皆様が「ここは理想郷である」という思いを持つのであれば、その言葉を使ってもよいと思います。
その他	私は２０２４年から数えると、さぬき市に８０泊ほどしています。ほとんど同じ宿に泊まっているので、今ではチェックインの手続も不要で、入るとすぐに鍵を渡してくれます。食事の好みも分かってくれています。これほど頻繁に訪れるのは、居心地がよいまちだからです。 人が優しいことに加えて、もう一つ挙げたいのは、まちが清潔だということです。公園や施設も含め、清掃が非常に行き届いています。皆さん真面目で、優しく、きちんとしているけれども、来訪者を緊張させないまちだと感じています。
委員長	皆様から、非常に重要なキーワードが出たと思います。地形があり、そ

	こに地域の関係性がつくられてきました。まず自然があり、その中に人が住み、集落やまちができ、それが一緒になったり、分かれたりしてきました。しかし、基盤となる自然は変わりません。さぬき市は、海があり、川があり、山があり、平野がある、変化に富んだ自然を持っています。それが、この地域の特徴だと思います。 先ほど大串半島から見る景色の話がありましたが、外から見る景色も素晴らしいものです。屋島から志度湾を見ると、満月の光が湾内に映り、非常にきれいです。さぬき市の豊かな自然が原点にあり、その上に人々の暮らしや交流が成り立っています。 皆様からよいキーワードが出ましたので、これらを整理しながら、さぬき市らしさを考えていきたいと思います。皆様には、市外の人に「さぬき市は、このようなよいところです」と一言で説明できるよう、引き続き考えていただきたいと思います。 それでは、次の議題に進みます。事務局から説明をお願いします。
事務局	（事務局から、第１回・第２回ワークショップの振り返り、さぬき市観光ビジョンの概要、策定スケジュールの見直し、第３次総合計画骨子案について説明）
委員長	観光ビジョンですから、総合計画と全く関係のないものを作ってもよい、という考え方もあるかもしれません。しかし、実際には総合計画に基づいて予算が編成されますので、観光ビジョンの方向性が総合計画と異なっていれば、予算が付かない可能性もあります。これは半分冗談ですが、まちづくりを進める上で、どのようなまちにしたいかを示すのが総合計画ですから、それとの関係性はきちんと持たせた方がよいと思います。 総合計画の基本理念には、「守る」だけでなく、「結ぶ」などの考え方もあります。観光ビジョンでも、そうした考え方を意識してほしいと思います。 基本目標は６つあります。当初の資料では、そのうち観光に直接言及した一つだけを示していました。しかし、それだけでは不十分です。観光事業者だけで観光ビジョンを作っても、地域全体は豊かになりません。総合計画の全ての項目を、観光という視点から考えるようなビジョンにすれば、面白いのではないかと思います。観光とは、地域にある光るものを見つけることです。その意味では、総合計画全体を対象として考えてもよいと思います。
その他	基本目標５に「持続可能なまち」があります。私は２００４年から、世界各地から北海道に人を呼ぶ仕事をしています。現在は、環境への配慮が当たり前になっています。例えば、プラスチック製の食器を使い続けるまちには行きたくない、ごみの分別をしないまちには行きたくない、毎日ベッドシーツを交換するホテルには泊まりたくない、という意識があります。宿泊客が残した食事を堆肥化し、その堆肥を使って農家が育てた野菜をホテルで提供している、といった循環を明確に示す施設が選ばれています。さぬき市で初めて観光ビジョンを作るのであれば、持続可能なまちにある観光施設を選んでもらうという意識を持つべきだと思います。 また、基本目標１には「学びと挑戦が未来をひらくまち」があります。志度高校との３年間の取組を見ていると、高校生が、観光という仕事は面白いかもしれない、英語を身に付ければガイドとして収入を得て、このまちに戻ってこられるかもしれない、と少しずつ気付き始めています。

	福祉、教育、医療、交通など、全てが観光とつながっています。委員長が言いたかったのは、「観光という言葉だけにとらわれないでほしい」ということだと思います。
委員長	薄い計画であれば、「観光客が今年何人来ました」というだけで終わります。しかし、観光は続けていかなければなりません。 このまちは人口が減っており、大変な状況にあります。その中で、外から応援してくれる人を増やすことが必要です。それが関係人口の拡大などにつながります。小さく考えるのではなく、まず大きく考え、その中で何ができるかを考えるべきです。 もう一つ、行政は縦割りで物事を考えがちですが、そこにはロスが生じます。そのロスをいかに減らすかが重要です。観光というキーワードで横串を通すことによって、さまざまな施策を合理的につなぎ、イノベーションを生み出す可能性があります。まちのイノベーションにつながるような計画を作ってほしいと思います。
委員	個人的な意見かもしれませんが、行政的な考え方では、観光資源を横展開し、全体を網羅することがよいとされる面があります。しかし、少し何かが欠けているように感じます。民間的な考え方では、「これに絞る」と決めることがあります。それだけですぐにうまくいくわけではありませんが、５年かけて人を集め、それを中心にさまざまなものをコーディネートしていきます。そうしなければ、「さぬき市とは何なのか」という委員長の問いに答えられません。 例えば、食なのか、おもてなしなのか、一点を決めたら、それに重点的に取り組む必要があります。何年か続ける中で、「さぬき市といえば、これ」と言われるようになるのだと思います。 今後の予算の付け方も含め、今までの延長線では同じ結果になります。ターゲットを明確にし、特定の分野に関心を持つ人を集めるなど、キーワードを決めた上で、その周辺のおもてなしを考えるべきです。正解は初めからありません。決めたものを正解にしていくことが大切です。何を選んでも必ずうまくいくわけではなく、社会情勢も変わります。その中で、どのようにマネジメントしていくかが重要です。 できれば、この委員会の中で、「これでいく」という合意をつくり、行政が本気で後押ししてほしいと思います。 一つの取組に人が多く集まり、次の課題が見えれば、その課題に予算を付け、効果を地域に波及させていく。そのように何度も回していく必要があります。全てを一度に網羅しようとすると、結局、津田なのか志度なのか、何なのかという話に戻ってしまうように思います。
委員長	今のお話で大切なのは、まず１０年間程度の大きな方向性を示すビジョンを作らないと、どのように動けばよいか分からないということです。大きな方向性の中から、具体的な施策を来年度のアクションプランとして考えます。アクションは、成果を出さなければなりません。また、成果に至るまでのストーリーをきちんと考える必要があります。ストーリーと成果指標を持ち、うまくいかなければ見直し、新しい取組に変えていく。やってみなければ分からないこともありますので、アクションプランをどのように活用するかが重要です。 仙台といえば牛タン、というように、いくつかのキーワードを構成していく必要があります。さぬき市でも、何か一つを打ち出し、それに津田の

	松原やテアトロンなどを組み合わせて売っていくことが必要です。大きな予算がなくても、知恵があれば、様々なものを組み合わせることができます。資源や歴史、人に適切なストーリーを乗せ、「なぜ来るのか」という道筋を地道につくる必要があります。 　そのためには、住んでいる人が動かなければなりません。行政任せでは、絶対にできません。住民の皆様に、どのように主体的に動いていただくか。そのことを、今後アクションプランの中でしっかり検討してほしいと思います。 　続いて、観光ビジョンの基本構想案について事務局から説明をお願いします。
事務局	（事務局から観光ビジョン基本構想案について説明）
委員長	ありがとうございました。この素案について、どのようなことでも結構ですので、ご意見をお願いします。
委員	厳しく言えば、遜色なくよくできています。しかし、よく分からないものにもなっていると思います。 　先ほども申し上げましたが、もう少し大きなコンセプトとして、どこまで振り切れるかが大切です。非常によい文章が並び、誰からも反対されにくいものになっていますが、できすぎているというか、もう少し何かが入っていてもよいと感じます。
委員	資料を見て、結願の里というか、結願については非常にうまく書かれていると思いました。「5る」と「ゴール」、そして「結願」を組み合わせた言葉は、よくできていると思います。 　しかし、さぬき市は結願のまちという基本的なコンセプトを以前から持っています。今回、初めて観光ビジョンを作るのであれば、もう一歩踏み込んでほしいと思います。単なる結願で、これで終わってしまうのではなく、その次があり、明日へ続いていくというニュアンスも入れていただきたいと思います。結願の後の一歩、新しい出発のまちである、ということを基本的な考え方に加えてほしいと思います。
委員	「めぐる」という言葉には広がりがあり、循環していくようなイメージがあります。 　「5る（ゴール）」は非常によいアイデアですが、「めぐる」という言葉からすると、全てをゴールに落とし込まなくてもよいのではないかと思います。ゴールとすると、そこで一度切れてしまう印象があります。もちろん結婚もゴールではありませんが、それと同じで、結願もそこで終わるものではありません。 　基本コンセプトの言葉は、私はこれでよいと思います。その後、基本理念からアクションプランへ進む際に、具体的な取組につながるものにする必要があります。アクションは次の段階ということかもしれませんが、理念を作る段階でも、次の行動を見据えておくべきです。 　理念が次のアクションにつながらないものであれば、いつまでも一歩を踏み出せず、足踏みをしたまま１０年後を迎える危険があります。 　ワークショップでは具体的なキーワードも出ていますので、それを見据えて理念を作る方がよいと思います。

委員	コンセプトを見て、よくまとまっているとは思いましたが、私の中には、すっと入ってきませんでした。まとまりすぎているというか、心に強く響くものが少ないと感じました。 少し話がそれるかもしれませんが、私がまち歩きを始めたときに言われた言葉を２９年間大切にしています。それは、「あなたのまちを愛することから始めよう」という言葉です。 やはり、「まちが好き」というところが出発点ではないかと思います。人でも、まちでも、景色でも、祭りでも、何でも構いません。地域を好きだという根本的な部分が入るとよいのではないかと思いました。
委員	私も、基本理念について、さまざまな自治体の観光ビジョンや計画を見ました。多くの自治体では、まず「訪れる人」、つまり観光客を一番に置いています。成果指標としても、観光客に何回来てもらうか、どの程度消費してもらうかが中心です。 しかし、中には、まず住民が幸せになること、住民が満足し、自分らしい暮らしを持てることを観光ビジョンに掲げている自治体もあります。 先ほどの「まちを愛する」という意見を聞き、そうした考え方もあるのではないかと思い、発言しました。
委員	私も同じように感じました。「めぐる」という言葉自体はよいと思います。ただ、基本理念の中に、私たちがこのまちを好きになるという考えを入れてほしいと思います。私たちがこのまちを好きにならなければ、訪れた人にも、さぬき市を好きになってもらえないと思います。そのような意味を、どこかに入れていただければと思います。
委員	私は、この原案でよいと思っています。 大切なのは、今後の施策です。施策に結び付けるためのキーワードは、原案の中に含まれていると思います。私は民間企業に勤めていますので、行政の方とは少し考え方が違うかもしれません。今回の資料を見たとき、企業のホームページに掲載されているビジョンや目標と比べると、文章が長いと感じました。全てを載せる必要があるのか、もう少し端的に表現した方がよいのではないかと思いました。 ただ、基本理念２の「迎える人が、自分事として関わる観光」は、この中で最もよい言葉だと思います。今後の展開を考えても、非常に重要な考え方です。私は、この内容でよいと思っています。
委員長	文章としては完成度が高いので、逆に何かを加えにくいのかもしれません。
その他	私も原案の作成に関わりましたので、皆様の意見を盛り込みすぎた部分があるかもしれません。あれもこれも入れようとして、この形に収まった面があります。 アクションプランを先に出し、やりたいこと、やらなければならないこと、誰が担うのかを整理し、それをグループ化して上位の理念にまとめる方法もあります。今回は、基本構想からアクションプランへ下ろしていく形です。こうした上から下への作り方が、皆様に腹落ちしにくい原因の一つかもしれません。具体的なアクションプランを先に出した方が、何をしなければならないか、どこにメリハリや優先順位を付けるかが分かりやすかったかもしれません。

	一方、理念の文章は、抽象的に書こうと思えば何とでも書ける面があります。今後、具体的な取組を整理し、基本構想にも反映させたいと思います。
その他	基本方針の５つの柱を見ると、内容は、「観光の基盤整備」「まちづくり」「資源の保全と活用」「推進する体制と人材」「国内外への発信」という構成になっています。 この基本方針とアクションプランの間に、「重点戦略」や「重点方針」のようなものを置くと、分かりやすくなると思います。例えば、「めぐる」一つを取っても、道路、JR、バス、タクシーなど、様々な関係者との調整が必要です。そこまで細かくするとアクションプランですが、その一つ前の段階として、基本方針を具体化する重点的な方向性を示す必要があります。 次回の会議までに、５つの基本方針を実現するため、何に重点を置くのかを整理し、皆様にご議論いただくとよいのではないかと思います。 具体的な施策は１００本、２００本と数多く出てきます。それらを１０本、１５本程度のまとまりに束ねる必要があります。 また、予算の問題もあります。農業、商業、都市計画など、様々な部門との関係があり、観光部門だけでできることは限られています。全庁を挙げて取り組める形にするには、基本構想の下に重点戦略を示すことが必要です。
委員長	ありがとうございます。基本方針とアクションプランの間に、戦略や重点方針を置くことで、具体的な取組に落とし込みやすくなるというご意見です。 上がり３か寺には、現在、お遍路さんが年間どのくらい来ていると思いますか。現在は、概ね５万人程度です。２０年ほど前は、１５万人程度だったと記憶しています。現在５万人で、以前は１５万人だったということですね。これは非常に重要な数字です。 上がり３か寺を観光資源として考えるとき、現状をどのように変えていくのかを考える必要があります。５万人を１０万人にすることを目指すのであれば、それ自体が非常に大きな取組です。そのためには、上がり３か寺とは何なのかというストーリーが必要です。 市内だけで考えるのではなく、さまざまな情報を活用しながら、現状をどのように変えていくのかを考える必要があります。どのような数値を目標として設定するかは、非常に重要だと思います。 本日は丁野さんにお越しいただいていますので、事例をご紹介いただければと思います。
丁野氏	（小田原市の観光ビジョン策定の事例等の紹介）
委員長	ありがとうございました。それでは事例紹介を聞いての感想や質問などがあればお願いします。
委員	観光部門だけではできないという話を伺い、農業をはじめ、様々な分野との調整が必要であることを改めて感じました。正直、大変だと思います。一方で、それが実現することによって、今ご紹介いただいたような、聞いていてわくわくするビジョンやまちになっていくのであれば、頑張る価値はあると感じました。

委員	聞いていて、「いいな、いいな」と感じました。このような取組から関係人口が生まれ、外部に広がっていくのだと思います。 大切なのは、もともと地域にあるものだと思います。地域のことを気に入り、北海道から移住してきたご夫婦の話などもあります。その土地を愛する人がいて、その思いが次の人とのつながりを生んでいるのだと思います。
委員	資料の中にある「市民有志」や「市民が担う」という部分が、非常に重要だと感じました。私は観光協会の立場で、この活動の中核にならなければならないと思っています。１０人、２０人、３０人と人を集めるだけでなく、構想を練り上げ、それを定着させる存在が必要です。自分も、その役割を担っていかなければならないと感じました。
委員	いろいろな経験に基づく事例で、大変勉強になりました。「なりわい」は、さぬき市でも重要だと思います。市内には、大学等と連携しながら地域の仕事や暮らしを学ぶ取組もあります。地域のなりわいを、外から来た人だけでなく、地域の子どもたちにも見てもらうことが大切です。 普段、地域の人が働いている姿そのものが素晴らしく、仕事は楽しいということが伝わるとよいと思います。小田原市とさぬき市では地形や歴史が異なります。しかし、地形や自然があり、そこに人の暮らしがあるという基本は同じです。これからは、さぬき市に合った重点項目を、皆様で議論していくことが非常に重要です。 観光部門だけでなく、庁内のさまざまな部門とも話し合う必要があります。
委員	どこか一つだけが利益を得て、自分のところだけにため込んでいては、大きなことはできません。それぞれが得たものを地域全体で生かし、次の取組に予算を回す仕組みが必要です。 観光ビジョンを実行するために、地域にある事業者が利益を得て、子どもや家族連れも訪れ、地域でお金を使ってもらう。その人たちが日常生活に戻った後、またさぬき市に来たいと思い、再訪してもらう。そのような循環を考える必要があると思います。
丁野氏	今、「再投資」という言葉が出ました。観光庁も、地域の中で生まれた利益を地域にどのように還元し、再投資するかを重視しています。日本では、これまで十分に意識されてこなかった部分です。地域全体が豊かになる仕組みをつくる必要があります。 最後にもう一点申し上げます。計画を実行するのは、人と組織です。観光資源がいくらあっても、担う人、動かす組織がなければ観光にはなりません。 反対に、資源がそれほど多くなくても、担う人と組織がしっかりしていれば、多くの人が訪れる事例はあります。したがって、体制をどのように構築するかが、最も重要な課題の一つです。
委員	住民の善意に依存し、無償の奉仕を求め続ける方法では、持続可能なまちづくりにはなりません。 また、観光ビジョンは、観光客だけのためのものではなく、単なる誘客対策でもないと思います。

	総合計画としっかり連動させ、市全体を元気にするまちづくり政策にするべきです。観光政策というより、まちづくり政策だと思います。 小田原市の事例では、柱を作るだけでなく、住民が実際に動いています。地域の「なりわい」として成立しているから、よい方向に進んでいるのだと思います。改めて、行政だけでなく、地域が動かなければまちは動かないと感じました。
委員長	予定時間を少し超過していますので、まとめたいと思います。 本日の意見を事務局で整理し、今後の案に反映していただきたいと思います。大切なのは、行政はあくまで担い手の一つであり、行政だけが主役ではないということです。行政の予算がなくなれば取組が消えてしまうようでは、続きません。 市民の皆様が考え、地域の中でお金が回れば、行政も、市民も、来訪者も喜ぶことができます。机上の構想ではなく、今いる人たちが何をできるか、それによって地域がどのように明るくなるかが大切です。 先日、仙台で、ある音楽祭を見ました。２０年前に始まったものが、現在では多くの人を集め、大きな経済効果を生んでいます。最初から現在の規模だったわけではありません。音楽を大切にしようという市民や関係者の思いから始まり、２０年をかけて現在の形になりました。 この観光ビジョンも、市民が楽しみ、幸せになるためのものになれば、２０年後にさぬき市がどのように変わっているか、非常に楽しみです。皆様には、引き続きご協力をお願いします。 それでは事務局にお返しします。
事務局	ありがとうございました。最後に事務局から事務連絡をさせていただきます。 （１１月２９日開催のイベント「みろくすた」について、第３回策定委員会の日程の説明） 以上をもちまして、第２回さぬき市観光ビジョン策定委員会を終了いたします。長時間お疲れさまでした。気を付けてお帰りください。

■会議要約について
・発言者は、（事務局）（委員）（議長）等とし、氏名は記載しないこととします。
・意見概要等については、発言者の言葉を要約し、会議開始から終了までを記載してください。

■会議結果の概要の公表について
・会議の終了後１月以内に、会議要旨を作成し、会議資料とともに「附属機関等の会議結果公表報告書（別紙４）」により、市民部生活環境課までメールで報告するとともにホームページへ掲載してください。